

研究室配属（旧カリ：自主研修）実施要項

1. 目的

研究室配属は、学生自身が医学に関する研究活動に触れ、また実際に実験を体験することにより、実験のプランニング・手技・結果の解析・考察等の過程を通じて科学的思考のトレーニングを行うことを目的とする。

加えて、将来の研究者の育成と、臨床医であっても研究する意欲を持ち続けることを目指す教育の一環として、同時に、学生の自主性を啓発する事によって、すべての分野で求められる積極的な人材の育成に寄与することも目的とする。

2. 配当学年と実施世話人

配当学年：医学科 第3学年 前期

実施期間：おおむね7月中旬から9月末

期間中4週間は必須とするが、4週間以上の研修を実施することが望ましい。

受け入れ側の事情によっては、実施期間を分割してもよい。

実施世話人：医学科 第3学年 学年担当教員

3. 受け入れ講座等

① 学内基礎医学系講座（部門）

基礎医学の全講座（部門）、生命科学講座、医療文化学講座、
神経難病研究センター、動物生命科学研究センター、実験実習支援センター

② 学内臨床医学講座

4. 研修施設

受け入れ講座等及び学外（国内・外国）の大学や研究施設等

※学内臨床医学講座については研究部門のみに限る（内科・外科は各診療科単位で行う）。

5. 実施方針

・研究室配属は必修とする。

・学生は、本学の基礎医学系あるいは臨床医学のいずれかの講座・部門等を、受け入れ講座として自主的に選択し、受け入れ講座・部門の担当教員のもと研修を行う。

ただし、研修施設として前記の基礎医学系（3の①）以外を選択する場合は、4週間以上の研修期間のうち、少なくとも2週間は学内の基礎医学系で研修しなければならない。

研修先として、学外（国内・外国）の研究施設を選択する場合、学内基礎医学系での準備期間をこの2週間に含めることができる。

・学生は研究室配属終了後、報告書を提出しなければならない。

なお、複数の施設（準備期間の実施先も含む）で実施した場合は、原則としてそれぞれについての報告書を提出しなければならないが、実施先それぞれの指導教員が同意した場合は、一連の報告書として1部の報告書にまとめることができる（※表紙にそれぞれの実施期間を明記し、それぞれの指導教員の署名を得ること）。

研究室配属/自主研修の例

学内 基礎医学講座・研究センター 4週間以上	
学内 基礎医学講座・研究センター 2週間以上	学内 臨床医学講座 2週間以上
学内 基礎医学講座・研究センター 2週間以上（準備期間含む）	学外（国内・外国）研修施設 2週間以上

6. 実施の手順

(1) 準備

- ① 各講座・部門等は、受け入れ可能人数、実施期間、実施内容等を学生課へ提出する。
※実施内容として、臨床実習やそれを伴うもの、ボランティア、NGO等の社会活動は、原則として認めない。
- ② 受け入れ可能人数は、教員（学内講師を含む講師以上）1名当り数名の範囲とする。
- ③ 各講座・部門等は、紹介できる国内外の大学・研究施設について、受け入れ可能人数、実施期間、実施内容等をWebにて入力する。
※学外においても実施内容として、臨床実習やそれを伴うもの、ボランティアやNGO等の社会活動は原則として認めない。
- ④ 学生課は入力された学内・学外の研究施設等を取りまとめ、学生に公表する。
- ⑤ 学生は自主的に受け入れ講座（部門）と実施施設を決める。
- ⑥ 学外（国内・外国）で実施する場合は、受け入れ講座の担当（紹介）教員と面談し、必要なアドバイスを受けながら準備を行う。
特に外国の大学・研究施設等の準備には、英会話・相手方との交渉・渡航の準備・実施内容の理解と実習（可能なら）・研究室および日常生活のマナー等が含まれ、これらも受け入れ講座等の担当教員の指導のもと、学生が自主的に行う。
- ⑦ 学外で実施する場合の研究施設等への依頼については、国内については大学から、外国については、担当（紹介）教員から行う。
また、国内については評価表も併せて指導者へ送付する。
- ⑧ 旅費、滞在費、期間中の保険等は、学生個人の負担とする。
渡航中の旅行保険には必ず加入する。

(2) 研究室配属の報告

- ① 研究室配属の終了後、所定の表紙（大学HPからダウンロード）を付けた報告書を作成し、担当（紹介）教員の査読を受けたのち、正本2部を提出する。複数の施設で実施した場合は、それぞれの報告書作成を原則とするが、それぞれの指導教員が同意した場合は、1部の報告書としてまとめることができる。なお、学外施設（国内のみ）で実施した者は、学外の指導教員にも報告書を提出する。
報告書の書き方は医学系学術論文の形式にならうものとする。
- ② 作成した報告書は、1部を担当（紹介）教員に、もう1部を学生課に提出する。

7. 評価

成績は、態度と報告書等により総合的に判定し、合否の2段階で評価する。